

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2170500629 | | |
| 法人名 | 特定医療法人フェニックス | | |
| 事業所名 | グループホームひだまり (たんぼぼ) | | |
| 所在地 | 岐阜県各務原市鵜沼各務原町9丁目204-4 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年9月4日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年3月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2170500629-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 岐阜後見センター |
| 所在地 | 岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7 |
| 訪問調査日 | 令和3年9月30日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々に合った外出支援に力を入れています。コロナ禍が続き、外出の支援は出来ていません。24時間の医療連携体制をとっており、朝夕のバイタルチェック・週1の医師の回診・訪問看護などで体調不良者の早期発見・対応に努めています。体力の低下を予防するため、室内でも家事作業の提供や体操などで体を動かす機会を増やしています。外出や外部との交流ができない中でも、中庭を利用して、季節の野菜作りや、観葉植物などを育てたり、とれた野菜で食事を楽しんだり、梅ジュースやシジュースを作ったり、フロアを季節の飾りつけをして楽しんだり工夫して過ごしています。常に認知症の方に寄り添い、安心して過ごせる「家」であることができるようにと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは中庭を囲んでリビングや居室を配置する明るく開放的な造りであり、テーブルや椅子が置かれてあり、利用者はそこかしこで思い思いにくつろいでいる。また、園芸に詳しい職員もおり、利用者それぞれ、興味を持って中庭でいちご、なす、トマト、ししとう、ゴーヤ、きゅうり等の野菜育てにいきんでいる。また、取れた野菜でジュースを作ったり、漬物にしたり、食材に活用する等している。食器にもこだわりを持ち、小皿に小分けする等食事が楽しみなものになるよう工夫している。今年度も引き続き、コロナ禍の影響で外出や行事等の活動が制限的にならざるを得ない状況にあるが、その中でも、利用者の潜在能力を引き出し、高めていく観点から、利用者の状況に応じて、生活の中での役割を持つことや、自由な活動を後押ししていくよう、常に利用者一人ひとりに寄り添う支援に取り組んでいる。医療機関を母体としたホームの強みとして、定期的な訪問診療や訪問看護の実施、利用者の健康管理等、医療連携が密であるので、利用者・家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人理念の「Yes, we can!」の他に、ひだまり独自の「ゆったり、楽しく、寄り添って」という理念をあげている。朝礼、カンファンスで読み上げをし、周知徹底をしてケアにつなげている。 | 法人理念に加えて、ホームの独自理念「ゆったり」「楽しく」「寄り添って」を作り、理念に基づいたケア実践に努めている。例えば、入浴や食事時間等、利用者一人ひとりに合わせて、寄り添う支援を行っている。また、理念をカンファレンス時に復唱する等して、職員は理念の共通理解に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入し、市民清掃に参加している。通常は、近所の散歩や買い物などにより挨拶を交わすなどの交流はあるが、今年度も清掃なども実施されず出来ていない。 | 今年度も引き続きコロナ禍の影響により、地域との交流が制限的にならざるを得ない状況下にあるが、自治会に加入し、回覧板を活用して地域の情報を収集したり、近隣散策の際でのあいさつ等を通じて地域とのつながりを続けている。例年は、地元の自治会と連携し、地域の清掃活動に参加したり、ホームの行事等を通じて地域との交流を行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 隣接している施設の秋祭りに参加し地域の方々と交流し認知症の方の理解をしていたり機会がある。(今年度は中止) | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 入居者状況、ひやりはと報告、日常生活の様子を伝えている。参加頂いた方からの意見や質問、提案についてはその後のサービス提供に活かしている。(今年度は郵送にて実施) | 今年度もコロナ禍の状況が続いており、運営推進会議は開催できていないが、書面にて、ホームの活動状況やヒヤリハット等にも写真を活用する等して、わかりやすく工夫し、詳しく報告している。また、委員からも多くの意見をいただいている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 不明な点があれば市に連絡をして確認したり、認定調査員として来所された際に入居者様の様子を伝えアドバイスを頂いている。 | 今年度もコロナ禍の只中にあり、運営推進会議の開催を通じた市担当課の職員や地域包括支援センターの職員とのやり取りはできていないが、新型コロナウイルス接種の相談等、個々の相談や報告を通して協力関係が継続されている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 勉強会を開催したり、カンファレンスで話し合うなどし、理解し実践につなげている。玄関の施錠については、離設の恐れがある方もみえる為、安全の為に施錠はさせて頂いている。 | ユニットカンファレンスを行い、身体拘束をしないケアの具体的な対応や不適切ケアについて学びを深め、身体拘束をしないケアに全職員が取り組んでいる。拘束3要件に照らして、やむを得ない場合は、家族と話し合いを行い、同意書をいただいた上で、限定的に行うこととしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修で学んだことをカンファレンスで話し合い、情報を共有し、防止に努めている。不適切ケアのチェック項目を行い、自身の見直しをする機会を設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用される方はみえない為、もし各当事者が現れた時はその都度情報を共有し、理解に努め、支援する。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明書をもとに説明し、安心して入居して頂けるよう質問事項に丁寧に答えている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会を行い、質問・要望を伺ったり、ご家族同士での交流ができる機会を設けている。また、運営推進会議へ参加し発言して頂くことで、地域に向けて発信ができる場となっている。(今年度は中止) | 例年は、家族会を開いたり、夏祭り等の行事の機会を捉えて、利用者・家族の意見を聞いているが、今年度も引き続きコロナ禍の影響下であり、その中でも、窓越し面会の機会や電話を活用して、利用者・家族の意見を聞くよう努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的開催している法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談・提案をしあえる場となっている。得た情報や決定事項は各事業所に申し送られる。 | 管理職は日常的にケア実践の現場に身を置き、日々の業務を通じて、職員への声かけに努める等、職員が気軽に意見を出しやすいような雰囲気づくりに努めている。また、毎月、法人本部の会議に参加し、意見を表明している。人員体制が整わない時期には、本部から速やかに応援要員を手配してもらう等、ホームの安定運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 定期的上司と面談する機会が設けられており自己の取り組みの評価や目標設定のアドバイスを受けている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人研修・中途入職者研修・勉強会・クレド等で自己啓発を勧めている。法人外への研修もコロナ禍ではあるが、ZOOMでの研修への参加を勧めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内はもちろん、市が開催する研修や、不適切ケアの勉強会などへ参加し、交流する機会があるが、今年度はコロナの関係で出来てはいない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 契約時にご家族から伺った情報をもとに、ご本人とコミュニケーションを図り、聞き取りをしている。また、特に入居から1週間～1ヶ月は留意し見守り、安心できるよう寄り添い関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス導入前に見学に来て頂き説明をさせて頂いたり、質問等に答えさせて頂き、不安を取り除けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 法人内での「在宅支援会議」において、その時に必要なサービスの提供について検討し対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は、入居者様の得意な事・好きな事・できる事を理解し、施設での暮らしの中に活用するよう努めている。そうすることにより入居者様の「居場所」ができ、職員のやりがいにもつながっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者様の体調に応じた介護の相談や、必要物品(衣類・寝具・口腔ケア用品等)の購入の相談、行事への参加を無理のない範囲でお願いしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍のため、その時の状況に応じた面会や、希望があれば電話の取り次ぎをし、関係が維持できるよう支援している。 | 今年度も引き続きコロナ禍の影響下にあるので、馴染みの場所への外出や家族・知人の面会については制限的にならざるを得ない現状であるが、窓越し面会や電話の取次ぎ等の機会を活用して馴染みの人との関係継続に努めている。また、生活歴や習慣等をまとめたバックグラウンドアセスメントシートの情報をもとに、利用者の意向や大切にしている馴染みの人や場所について把握している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様同士の相性を把握しできる限りトラブルのないよう対応している。ゲームや運動、家事作業などお互いが関わりあえるような支援をし、孤立する方のないよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院や他施設へ転居される際に情報の共有を行っている。ご家族へ連絡をしご本人の容態や様子について伺い、今後について相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | お一人おひとりとゆっくり関わる時間を持ち、日常の会話や様子、バックグラウンド、スタッフ間の情報共有からご本人の思いを把握できるよう努めている。 | 利用者の日常生活の支援の中で、傾聴に心がけ、希望や意向の把握に努めている。困難な場合には、表情や行動を観察して読み取り、ユニット間、職員間で共通理解をしている。コロナ禍の只中で、外出や帰宅希望も叶えられないが、共感的姿勢で接し、できる限り意向に沿えるような対応に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | A-1シート、サマリー、バックグラウンドアセスメントシート、ご家族からの聞き取り情報を活用し、スムーズな入居、生活につなげている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎月のカンファレンス以外でも入居者様の状態変化が見られる時は、職員間で情報共有し、必要と思われる時は、医師や上司に報告・相談し指示を受けている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月ユニットカンファレンスを開催しケアサービス会議を行っている。ご家族からも面会時や、電話での日々の関わりの中でご要望を伺い、介護計画へ反映させている。 | ケアプランの作成にあたっては、面会時等に利用者・家族の意見を聞き、それを踏まえ、医師、看護師、理学療法士、福祉用具業者等の各種専門家からの意見を聞き、カンファレンスを開催し、職員チームで作成している。継続的にモニタリングを実施し、ケアプランを6か月ごとに見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や、気づきなどは個別に毎日記録している。特記事項は、日誌へ記入することで職員間で周知し、介護計画の見直しにつなげている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 当グループホームで対応できかねるような時は、法人内の「在宅支援会議」において入居者様やご家族の状況変化に応じ必要と思われる支援が受けられるよう検討している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 定期的なボランティアは現在受け入れは出来ていない。隣接する託児所の幼児たちの来訪もコロナの関係実施できていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 関係医療機関がかかりつけ医となっており、週1回の往診がある。ご本人・ご家族が他医療機関のかかりつけを希望された場合には医療連携を行っている。眼科・歯科の往診あり。 | 医療法人を母体とし、総合クリニックをはじめ、多くの医療・福祉の複合的施設展開を行っているため、緊急時体制も含め、ホームと医療機関との密な連携ができています。協力医療機関の訪問診療が毎週、定期的に行われており、情報を職員間で共有しており、他科受診についても連携関係ができています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎週金曜日に訪問看護師の来訪がある。看取り介護の場合には週2回、もしくは必要に応じて協力体制がある。その他体調不良時等は、隣接施設の看護師へ相談し対応が可能。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 法人内に「地域連携室」の設置があり医療連携ができる体制が整っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化や終末期における対応を説明しており、その時期が来た時には、ご家族・医師・看護師・介護職員との話し合いの場を設け終末期ケアに関する書類を作成し、チームで支援を行っている。 | 契約時に、重度化した場合や終末期のあり方について希望を聞き取った上で、重度化した際には、その都度、家族に説明するとともに、話し合いを行っている。母体が医療・福祉施設の複合的展開を行っている医療法人であるため、適切な施設紹介を行うとともに、希望に応じて看取りケアについても、家族の意向に沿うべく対応している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルを作成しており、医師への報告や救急車の要請時にスムーズに行えるよう備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練を定期的実施し避難方法を学んでいる。地域の方へも訓練に参加して頂いていたが、やはり今年度に入り実地出来ず。 | 定期的にコロナ禍に対応した昼夜想定避難訓練を行うとともに、法人施設群で合同避難訓練を行っている。また、BCP計画を策定し、備蓄関係も本部で整備している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その方の性格等も考慮しながら声かけや対応をしている。特に排泄等の声かけには、場所や声の大きさ、内容へ配慮し、相談等には個々の部屋で話をするなど対応をしている。 | コロナ禍における生活環境の中で、外出ができない等、不満が出やすい状況にある場合や、易怒性や周辺症状がある場合等、否定せず支持的に傾聴するよう努めている。また、利用者尊重の観点から、利用者それぞれの人生観・価値観を大切にしつつ、ゆったりと寄り添う姿勢で接している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 起床や就寝時間は、できるだけ本人の希望に合わせて生活して頂いている。 おやつや飲み物やレクリエーション等、選択できるように働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 体調や要望に沿って1人の時間や食事時間、昼寝等を調整しながら生活して頂いている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人の希望に沿って美容院の予約を行ったり、選択が可能な方には、着替えの選択をして頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の配膳を器の量や器にこだわり、目で楽しむ食事の提供を行っている。食事の盛り付けをしたり、配膳をしたり、洗い物をしたりと家事作業の提供の場にもなっている。餃子が食べたいとリクエストがあり、一緒に作り提供した。 | 今年度も引き続き、コロナ禍の中にあるが、外食の代わりにホーム内での食事が楽しみになるような支援に努めている。食事メニューもバラエティに富んでおり、また、器にこだわり、陶器で小皿に分けて提供し、見た目でも楽しめる食事や、主食、汁物はユニットで調理し、匂いが食欲を引き立てるよう工夫している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食、摂取量をチェックしている。入居者様に適した食事形態で提供する為、お一人おひとりの嚥下状態を常に観察し、医師・栄養士・看護師・STと連携を取って食事内容等の見直し・変更を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアを毎食後に行い、磨き残しのある方のブラッシングや義歯洗浄等を行っている。2週間に1度歯科衛生士の来訪もあり。異常が見られる場合は法人内の口腔外科医師の協力体制もあり。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェックをし、その方の排泄パターンを把握しトイレへお連れし、できるだけトイレでの排泄を促している。また、常に使用するアイテムの検討をし、快適に過ごせるように配慮している。 | 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限り、トイレでの排泄ができるよう自立に向けた排泄ケアを行っている。利用者一人ひとりに合わせて様々なおむつやパットを使用している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分、乳製品等の提供や体操などで体を動かすことで便秘の予防に努めている。また、腹部のマッサージや排泄時の姿勢等声かけをして自然排便を促している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴日は月～土までの間、週2回となっている。その中で、ゆっくり入りたい方や、早めに入浴をしたい方などできる限り要望に沿って支援している。季節が感じられるよう、菖蒲湯やゆず湯など楽しんで頂けるよう努めている。 | 週2回の入浴を基本とし、利用者の状況や要望に合わせて、柔軟な入浴支援に努めている。入浴の時間帯はゆったりと楽しんでいただくことに心がけている。また、しょうぶ湯や柚子湯等で季節を感じてもらえるよう工夫している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活リズムが整えられるよう、できるだけ日中の活動に参加を促し、夜間の良眠につなげられるよう配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者様の薬についてすぐに確認できるようにカルテには情報が入っている。又臨時の薬には薬箱に服用期間などの明細が貼っている。体調の変化があった時は医師に報告をし早めの対応に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 得意な事や好まれる事を把握し、楽しみが持てる生活をして頂けるよう支援している。ユニット内だけではなく、他ユニットの方と交流する場を設けるなど気分転換を図っていたが、今年に入り出来ずにいる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出ができないため、駐車場周辺などに、人が少ない時間帯に散歩に出かけたり、中庭に出て草木を触ったり、日光を浴びたりし気分転換を図ることができるよう配慮している。 | 例年は、近隣の散歩、地域へ買い物や外食等で、外出を行っているが、今年度も引き続き、コロナ禍の只中にあり、外出ができていない。その中であっても、中庭で野菜を育てたり、駐車場での外気浴、近隣散策等を行っている。 | コロナ禍の状況が続いており、代替策で外出の雰囲気を提供できるよう工夫している。今後、車中ドライブで風景や風を感じることができるよう、遠出も検討する等、さらなる工夫に向けた取り組みに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | トラブルにつながらないよう、現在はお預かりをしていない。外出時は、事前にご家族へ連絡をし、必要分のみ預かり対応している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族、ご本人の希望があれば電話の取次ぎを行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家庭的で温かい雰囲気を感じて頂けるよう、板張りの床だったり、中庭の様子がよく見える明るく開放的な窓で季節が感じられる作りになっている。季節の花を飾るなどし、和んだ雰囲気作りをしている。 | 様々な野菜等が栽培されている中庭を囲むようにリビングや廊下があり、椅子やテーブルを配置している。季節の花を飾り、利用者の作品を展示する等、彩りある空間を演出している。利用者はそこかしこで四季を感じつつ、ゆったりとした時間を過ごすことができている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用スペースにソファやテーブルを設置し、好きな場所で過ごすことができる。また、中庭が良く見えるようにそちらの方にもソファを置いて利用者様同士の会話作りを提供している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際に今まで使い慣れた家具や写真、作品等の思い出の品を持ち込んで頂いている。 | 居室には箆笥、仏壇等の利用者の馴染みの品が持ち込まれ、家族の写真等が飾られる等、それぞれの個性や生活スタイルを尊重した空間になっている。中には、ロボット犬「アイボ」と触れ合ったりする等、その人の生活スタイルを大切にした居室での生活ができている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下に手すりを設置しており、安全に移動が出来るように配慮されている。又、居室の入り口のボックスに馴染みの物や作品、写真等を飾って頂けるようになっている。居室入口に必要な方には名前を表示している。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2170500629 | | |
| 法人名 | 特定医療法人フェニックス | | |
| 事業所名 | グループホームひだまり (すみれ) | | |
| 所在地 | 岐阜県各務原市鵜沼各務原町9丁目204-4 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年9月4日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年3月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JikvsvCd=2170500629-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 岐阜後見センター |
| 所在地 | 岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7 |
| 訪問調査日 | 令和3年9月30日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々に合った外出支援に力を入れています。コロナ禍が続き、外出の支援は出来ていません。24時間の医療連携体制をとっており、朝夕のバイタルチェック・週1の医師の回診・訪問看護などで体調不良者の早期発見・対応に努めています。体力の低下を予防するため、室内でも家事作業の提供や体操などで体を動かす機会を増やしています。外出や外部との交流ができない中でも、テラスを利用して、季節の野菜作りや、観葉植物などを育てたり、とれた野菜で食事を楽しんだり、梅ジュースやしそジュースを作ったり、フロアを季節の飾りつけをして楽しんだり工夫をして過ごしています。常に認知症の方に寄り添い、安心して過ごせる「家」であることができるようにと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人理念の「Yes, we can!」の他に、ひだまり独自の「ゆったり、楽しく、寄り添って」という理念をあげている。朝礼、カンファンスで読み上げをし、周知徹底をしてケアにつなげている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入し、市民清掃に参加している。通常は、近所の散歩や買い物などにより挨拶を交わすなどの交流はあるが、今年度清掃なども実施されず出来ていない。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 隣接している施設の秋祭りに参加し地域の方々と交流し認知症の方の理解をしていたく機会がある。(今年度は中止) | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 入居者状況、ひやりはっと報告、日常生活の様子を伝えている。参加頂いた方からの意見や質問、提案についてはその後のサービス提供に活かしている。(今年度は郵送にて実施) | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 不明な点があれば市に連絡をして確認したり、認定調査員として来所された際に入居者様の様子を伝えアドバイスを頂いている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 勉強会を開催したり、カンファレンスで話し合うなどし、理解し実践につなげている。玄関の施錠については、離設の恐れがある方もみえる為、安全の為に施錠はさせて頂いている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修で学んだことをカンファレンスで話し合い、情報を共有し、防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用される方はみえない為、もし各当事者が現れた時はその都度情報を共有し、理解に努め、支援する。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明書をもとに説明し、安心して入居して頂けるよう質問事項に丁寧に答えている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会を行い、質問・要望を伺ったり、ご家族同士での交流ができる機会を設けている。また、運営推進会議へ参加し発言して頂くことで、地域に向けて発信ができる場となっている。(今年度は中止) | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的で開催している法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談・提案をしあえる場となっている。得た情報や決定事項は各事業所に申し送られる。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 定期的にも上司と面談する機会が設けられており自己の取り組みの評価や目標設定のアドバイスを受けている。非常勤職員にも毎月評価シートがあり適切に評価を受けることができる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人研修・中途入職者研修・勉強会・クレド等で自己啓発を勧めている。法人外への研修もコロナ禍ではあるが、ZOOMでの研修への参加を勧めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内はもちろん、市が開催する研修や、不適切ケアの勉強会などへ参加し、交流する機会があるが、今年度はコロナの関係で出来てはいない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 契約時にご家族から伺った情報をもとに、ご本人とコミュニケーションを図り、聞き取りをしている。また、特に入居から1週間～1ヶ月は留意し見守り、安心できるよう寄り添い関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス導入前に見学に来て頂き説明をさせて頂いたり、質問等に答えさせて頂き、不安を取り除けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 法人内での「在宅支援会議」において、その時に必要なサービスの提供について検討し対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は、入居者様の得意な事・好きな事・できる事を理解し、施設での暮らしの中に活用するよう努めている。そうすることにより入居者様の「居場所」ができ、職員のやりがいにもつながっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者様の体調に応じた介護の相談や、必要物品(衣類・寝具・口腔ケア用品等)の購入の相談、行事への参加を無理のない範囲でお願いしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍のため、その時の状況に応じた面会や、希望があれば電話の取り次ぎをし、関係が維持できるよう支援している。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様同士の相性を把握しできる限りトラブルのないよう対応している。ゲームや運動、家事作業などお互いが関わりあえるような支援をし、孤立する方のないよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院や他施設へ転居される際に情報の共有を行っている。ご家族へ連絡をしご本人の容態や様子について伺い、今後について相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | お一人おひとりとゆっくり関わる時間を持ち、日常の会話や様子、バックグラウンドからご本人の思いを把握できるよう努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | A-1シート、サマリー、バックグラウンドアセスメントシート、ご家族からの聞き取り情報を活用し、スムーズな入居生活につなげている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎月のカンファレンス以外でも入居者様の状態変化が見られる時は、職員間で情報共有し、必要と思われる時は、医師や上司に報告・相談し指示を受けている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月ユニットカンファレンスを開催しケアサービス会議を行っている。ご家族からも面会時や、電話での日々の関わりの中でご要望を伺い、介護計画へ反映させている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や、気づきなどは個別に毎日記録している。特記事項は、日誌へ記入することで職員間で周知し、介護計画の見直しにつなげている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 当グループホームで対応できかねるような時は、法人内の「在宅支援会議」において入居者様やご家族の状況変化に応じ必要と思われる支援が受けられるよう検討している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 定期的なボランティアは現在受け入れは出来ていない。隣接する託児所の幼児たちの来訪もコロナの関係実施できていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 関係医療機関がかかりつけ医となっており、週1回の往診がある。ご本人・ご家族が他医療機関のかかりつけを希望された場合には医療連携を行っている。眼科、歯科等の往診あり。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎週金曜日に訪問看護師の来訪がある。看取り介護の場合には週2回、もしくは必要に応じ協力体制がある。その他体調不良時等は、隣接施設の看護師へ相談し対応が可能。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 法人内に「地域連携室」の設置があり医療連携ができる体制が整っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化や終末期における対応を説明しており、その時期が来た時には、ご家族・医師・看護師・介護職員との話し合いの場を設け終末期ケアに関する書類を作成し、チームで支援を行っている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルを作成しており、医師への報告や救急車の要請時にスムーズに行えるよう備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練を定期的実施し避難方法を学んでいる。地域の方へも訓練に参加して頂いていたが、やはり今年度に入り実地出来ず。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その方の性格等も考慮しながら声かけや対応をしている。特に排泄等の声かけには、場所や声の大きさ、内容へ配慮し、相談等には個々の部屋で話をするなど対応をしている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 起床や就寝時間は、できるだけ本人の希望に合わせて生活して頂いている。おやつや飲み物やレクリエーション等、選択できるように働きかけをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 体調や要望に沿って1人の時間や食事時間、昼寝等を調整しながら生活して頂いている。また、車椅子の方の腰への負担なども考慮し、ベットへの休養の提供をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人の希望に沿って美容院の予約を行ったり、選択が可能な方には、着替えの選択をして頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の配膳を器の量や器にこだわり、目で楽しむ食事の提供を行っている。食事の盛り付けをしたり、配膳をしたり、洗い物をしたりと家事作業の提供の場にもなっている。餃子が食べたいとクエストがあり、一緒に作り提供した。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食、摂取量をチェックしている。入居者様に適した食事形態で提供する為、お一人おひとりの嚥下状態を常に観察し、医師・栄養士・看護師・STと連携を取って食事内容等の見直し・変更を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアを毎食後に行い、磨き残しのある方のブラッシングや義歯洗浄等を行っている。2週間に1度歯科衛生士の来訪もあり。異常が見られる場合は法人内の口腔外科医師の協力体制もあり。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェックをし、その方の排泄パターンを把握しトイレへお連れし、できるだけトイレでの排泄を促している。また、常に使用するアイテムの検討をし、快適に過ごせるように配慮している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分、乳製品等の提供や体操などで体を動かすことで便秘の予防に努めている。また、腹部のマッサージや排泄時の姿勢等声かけをして自然排便を促している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴日は月～土までの間、週2回となっている。その中で、ゆっくり入りたい方や、早めに入浴をしたい方などできる限り要望に沿って支援している。季節が感じられるよう、菖蒲湯やゆず湯など楽しんで頂けるよう努めている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活リズムが整えられるよう、できるだけ日中の活動に参加を促し、夜間の良眠につなげられるよう配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者様の薬についてすぐに確認できるようにカルテには情報が入っている。又臨時の薬には薬箱に服用期間などの明細が貼っている。体調の変化があった時は医師に報告をし早めの対応に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 得意な事や好まれる事を把握し、楽しみが持てる生活をして頂けるよう支援している。ユニット内だけではなく、他ユニットの方と交流する場を設けるなどし気分転換を図っていたが、今年度も交流は控えている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 2階は中庭が無い為、ベランダに出てひなたぼっこや、上から下の中庭を眺めて頂き目から楽しんで頂いている。また、そのベランダを利用して、外での昼食や、お茶の時間を利用して外出したかのような雰囲気を提供している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | トラブルにつながらないように、現在はお預かりをしていない。外出の際は事前にご家族へ連絡をし、必要分のみお預かりしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族、ご本人の希望があれば電話の取次ぎを行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家庭的で温かい雰囲気を感じて頂けるよう、板張りの床だったり、天井が高く開放感があり、日光を取り入れる窓がある。2階であっても陽の光を感じられ気持ちよく過ごして頂ける空間となっている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有スペースは、食事席以外にもソファを設置しており、好きな場所で過ごして頂いている。2階のため中庭はないが、テラスに椅子を設置しゆっくり過ごせる空間を作っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際に今まで使い慣れた家具や写真、作品等の思い出の品を持ち込んで頂いている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下に手すりを設置しており、安全に移動が出来るように配慮されている。又、居室の入り口のボックスに馴染みの物や作品、写真等を飾って頂けるようになっている。自室がわかるよう入口に名前を貼っている方もみえる。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2170500629 | | |
| 法人名 | 特定医療法人フェニックス | | |
| 事業所名 | グループホームひだまり (れんげ) | | |
| 所在地 | 岐阜県各務原市鵜沼各務原町9丁目204-4 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年9月4日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年3月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoNoCd=2170500629-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 岐阜後見センター |
| 所在地 | 岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7 |
| 訪問調査日 | 令和3年9月30日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々に合った外出支援に力を入れています。コロナ禍が続き、外出の支援は出来ていません。24時間の医療連携体制をとっており、朝夕のバイタルチェック・週1の医師の回診・訪問看護などで体調不良者の早期発見・対応に努めています。体力の低下を予防するため、室内でも家事作業の提供や体操などで体を動かす機会を増やしています。外出や外部との交流ができない中でも、中庭を利用して、季節の野菜作りや、観葉植物などを育てたり、とれた野菜で食事を楽しんだり、梅ジュースやしそジュースを作ったり、フロアを季節の飾りつけをして楽しんだり工夫して過ごしています。常に認知症の方に寄り添い、安心して過ごせる「家」であることができるようにと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人理念の「Yes, we can!」の他に、ひだまり独自の「ゆったり、楽しく、寄り添って」という理念をあげている。朝礼、カンファンスで読み上げをし、周知徹底をしてケアにつなげている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入し、市民清掃に参加している。通常は、近所の散歩や買い物などにより挨拶を交わすなどの交流はあるが、今年度は清掃なども実施されず出来ていない。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 隣接している施設の秋祭りに参加し地域の方々と交流し認知症の方の理解をしていたく機会がある。(今年度は中止) | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 入居者状況、ひやりはと報告、日常生活の様子を伝えている。参加頂いた方からの意見や質問、提案についてはその後のサービス提供に活かしている。(今年度は郵送にて実施) | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 不明な点があれば市に連絡をして確認したり、認定調査員として来所された際に入居者様の様子を伝えアドバイスを頂いている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 勉強会を開催したり、カンファレンスで話し合うなどし、理解し実践につなげている。玄関の施錠については、離設の恐れがある方もみえる為、安全の為に施錠はさせて頂いている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修で学んだことをカンファレンスで話し合い、情報を共有し、防止に努めている。不適切ケアのチェック項目を行い、自身の見直しをする機会を設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用される方はみえない為、もし各当事者が現れた時はその都度情報を共有し、理解に努め、支援する。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明書をもとに説明し、安心して入居して頂けるよう質問事項に丁寧に答えている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会を行い、質問・要望を伺ったり、ご家族同士での交流ができる機会を設けている。また、運営推進会議へ参加し発言して頂くことで、地域に向けて発信ができる場となっている。(今年度は中止) | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的で開催している法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談・提案をしあえる場となっている。得た情報や決定事項は各事業所に申し送られる。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 定期的にも上司と面談する機会が設けられており自己の取り組みの評価や目標設定のアドバイスを受けている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人研修・中途入職者研修・勉強会・クレド等で自己啓発を勧めている。法人外への研修もコロナ禍ではあるが、ZOOMでの研修への参加を勧めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新人研修・中途入職者研修・勉強会・クレド等で自己啓発を勧めている。法人外への研修も順次進めている。コロナ禍ではあるが、ZOOMでの研修への参加を勧めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 契約時にご家族から伺った情報をもとに、ご本人とコミュニケーションを図り、聞き取りをしている。また、特に入居から1週間～1ヶ月は留意し見守り、安心できるよう寄り添い関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス導入前に見学に来て頂き説明をさせて頂いたり、質問等に答えさせて頂き、不安を取り除けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 法人内での「在宅支援会議」において、その時に必要なサービスの提供について検討し対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は、入居者様の得意な事・好きな事・できる事を理解し、施設での暮らしの中に活用するよう努めている。そうすることにより入居者様の「居場所」ができ、職員のやりがいにもつながっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者様の体調に応じた介護の相談や、必要物品(衣類・寝具・口腔ケア用品等)の購入の相談、行事への参加を無理のない範囲でお願いしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍のため、その時の状況に応じた面会や、希望があれば電話の取り次ぎをし、関係が維持できるよう支援している。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日々の様子や、気づきなどは個別に毎日記録している。特記事項は、日誌へ記入することで職員間で周知し、介護計画の見直しにつなげている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院や他施設へ転居される際に情報の共有を行っている。ご家族へ連絡をしご本人の容態や様子について伺い、今後について相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | お一人おひとりとゆっくり関わる時間を持ち、日常の会話や様子、バックグラウンドからご本人の思いを把握できるよう努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | A-1シート、サマリー、バックグラウンドアセスメントシート、ご家族からの聞き取り情報を活用し、スムーズな入居生活につなげている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎月のカンファレンス以外でも入居者様の状態変化が見られる時は、職員間で情報共有し、必要と思われる時は、医師や上司に報告・相談し指示を受けている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月ユニットカンファレンスを開催しケアサービス会議を行っている。ご家族からも面会時や、電話での日々の関わりの中でご要望を伺い、介護計画へ反映させている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や、気づきなどは個別に毎日記録している。特記事項は、日誌へ記入することで職員間で周知し、介護計画の見直しにつなげている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 当グループホームで対応できかねるような時は、法人内の「在宅支援会議」において入居者様やご家族の状況変化に応じ必要と思われる支援が受けられるよう検討している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 定期的なボランティアは現在受け入れは出来ていない。隣接する託児所の幼児たちの来訪もコロナの関係実施できていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 関係医療機関がかかりつけ医となっており、週1回の往診がある。ご本人・ご家族が他医療機関のかかりつけを希望された場合には医療連携を行っている。眼科、歯科等の往診あり。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎週金曜日に訪問看護師の来訪がある。看取り介護の場合には週2回、もしくは必要に応じ協力体制がある。その他体調不良時等は、隣接施設の看護師へ相談し対応が可能。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 法人内に「地域連携室」の設置があり医療連携ができる体制が整っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化や終末期における対応を説明しており、その時期が来た時には、ご家族・医師・看護師・介護職員との話し合いの場を設け終末期ケアに関する書類を作成し、チームで支援を行っている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルを作成しており、医師への報告や救急車の要請時にスムーズに行えるよう備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練を定期的実施し避難方法を学んでいる。地域の方へも訓練に参加して頂いていたが、やはり今年度に入り実地出来ず。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その方の性格等も考慮しながら声かけや対応をしている。特に排泄等の声かけには、場所や声の大きさ、内容へ配慮し、相談等には個々の部屋で話をするなど対応をしている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 起床や就寝時間は、できるだけ本人の希望に合わせて生活して頂いている。おやつや飲み物やレクリエーション等、選択できるように働きかけをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 体調や要望に沿って1人の時間や食事時間、昼寝等を調整しながら生活して頂いている。また、車椅子の方の腰への負担なども考慮し、ベットへの休養の提供をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人の希望に沿って美容院の予約を行ったり、選択が可能な方には、着替えの選択をして頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の配膳を器の量や器にこだわり、目で楽しむ食事の提供を行っている。食事の盛り付けをしたり、配膳をしたり、洗い物をしたりと家事作業の提供の場にもなっている。餃子が食べたいとクエストがあり、一緒に作り提供した。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食、摂取量をチェックしている。入居者様に適した食事形態で提供する為、お一人おひとりの嚥下状態を常に観察し、医師・栄養士・看護師・STと連携を取って食事内容等の見直し・変更を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアを毎食後に行い、磨き残しのある方のブラッシングや義歯洗浄等を行っている。2週間に1度歯科衛生士の来訪もあり。異常が見られる場合は法人内の口腔外科医師の協力体制もあり。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェックをし、その方の排泄パターンを把握しトイレへお連れし、できるだけトイレでの排泄を促している。また、常に使用するアイテムの検討をし、快適に過ごせるように配慮している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分、乳製品等の提供や体操などで体を動かすことで便秘の予防に努めている。また、腹部のマッサージや排泄時の姿勢等声かけをして自然排便を促している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴日は月～土までの間、週2回となっている。その中で、ゆっくり入りたい方や、早めに入浴をしたい方などできる限り要望に沿って支援している。季節が感じられるよう、菖蒲湯やゆず湯など楽しんで頂けるよう努めている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活リズムが整えられるよう、できるだけ日中の活動に参加を促し、夜間の良眠につなげられるよう配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者様の薬についてすぐに確認できるようにカルテには情報が入っている。又臨時の薬には薬箱に服用期間などの明細が貼っている。体調の変化があった時は医師に報告をし早めの対応に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 得意な事や好まれる事を把握し、楽しみが持てる生活をして頂けるよう支援している。ユニット内だけではなく、他ユニットの方と交流する場を設けるなどし気分転換を図っていたが、今年に入り出来ずにいる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出ができないため、駐車場周辺などに、人が少ない時間帯に散歩に出かけたり、中庭に出て草木を触ったり、日光を浴びたりし気分転換を図ることができるよう配慮している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | トラブルにつながらないよう、現在はお預かりをしていない。外出時は、事前にご家族へ連絡をし、必要分のみ預かり対応している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族、ご本人の希望があれば電話の取次ぎを行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家庭的で温かい雰囲気を感じて頂けるよう、板張りの床だったり、中庭の様子がよく見える明るく開放的な窓で季節が感じられる作りになっている。季節の花を飾るなどし、和んだ雰囲気作りをしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用スペースにソファやテーブルを設置し、好きな場所で過ごすことができる。また、中庭が良く見えるようにそちらの方にもソファを置いて利用者様同士の会話作りを提供している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際に今まで使い慣れた家具や写真、作品等の思い出の品を持ち込んで頂いている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下に手すりを設置しており、安全に移動ができるように配慮されている。又、居室の入り口のボックスに馴染みの物や作品、写真等を飾って頂けるようになっている。居室入口に必要な方には名前を表示している。 | | |